

園部哲史客員教授による特別講義を開催しました

園部哲史客員教授による特別講義を開催しました
令和2年12月17日 Moyaist Global Entry Training
(第12回)において、アジア開発銀行研究所長であり、前政策大学院大学副学長の園部哲史客員教授による特別講義を開催しました。



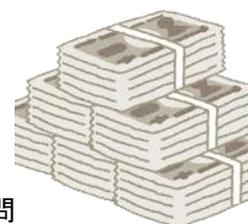
講義前にオープニン

グとして、国際教育交流センター長レイヴィン・リチャード先生、担当の田中和也先生をはじめ本学特任教授の田中耕太郎先生にも参加いただき、学生を交えた英語でのやりとりをしていただくなど、園部先生のお人柄そのままに和やかな雰囲気でも始めました。

まず、園部先生から、講義のテーマである
Foreign aid: Will you be happy if a non-negligible

fraction of your tax is spent in foreign countries for people there? を考えるにあたって、発展途上国への経済支援の成り立ちや先進国、発展途上国それぞれの実情について、かみくだいて説明いただきました。

事前に、受講する学生に対し【日本政府の開発途上国向けの経済支援についての是非について】の賛否と併せて、意見を論理的に説明できるように指示をいただいていた。このこともあって、授業が進むにつれ、学生からも「自国の問題解決を優先すべき」「途上国を支援する中で、自国の問題解決のヒント、より効果的なシステムの構築が見込まれ、自国の発展につながる」などの発言もあり、議論も深まってきました。



園部先生から学生の発言に触れて、開発援助金の元となる税や産業革命、スポーツなど、周辺事情を解説いただき、後半は参加者全員が自国の利益のみでなく、国際的な視野に立った発言が見られるようになりました。

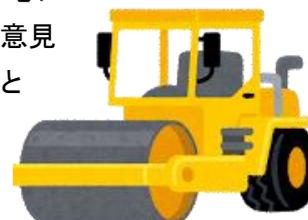
最後に園部先生から「賛成派と反対派のそれぞれの立場に立って、議論を組み立ててみるという頭の使い方ができるようになると、皆さんのこれからの人生の様々な場面でとても役にたちます。自分の考えを突き詰めるよりも、むしろ、世の中には多様な考えがあることを認め、そうした考えがどういう発想から生まれてくるのかを検討することにより、人として他者に対する包容力が生まれるとともに、自分にとってもよりよい決定ができるようになるのではと考えます。」とコメントをいただき、授業は終了となりました。

後日、学生から「経済支援については、賛成(反対)だったが、違う意見を持つ人を納得させるために、相手がどのように考えるのか予想する必要があることを学んだ。」「園部先



生からの『世の中には自分が常識と思っているけど違うことがある。』という言葉が心に残った。」「課題についてみんなが答える中で、自分にはない意見がたくさんあり、意見交換することが楽しいと思えた。」などのコメントがあり、園部先生の意図されたところを的確につかんでいる様子が見えました。

これは他者への理解、想像という Moyaist の理念を国際的に展開していくための大きな一歩といえるでしょう。



今回、コロナウイルスの感染拡大防止のために ZOOM での講義でしたが、小さな画面の中で先生方を中心に数十人で集い、今いる場所でない世界の経済援助や発展について考えていく得難い経験を共有できました。



※ Moyaist Global Entry Training

熊本県立大学は令和2年度から将来、海外で学び、働くことを目指す学生の育成を目的として、もやいすとグローバル育成プログラムを設けております。Moyaist Global Entry Training は一年生を対象とした英語でのクラスです。